

温故知新でこのまちの 歴史と文化を未来につなぐ

「甲佐の歴史を次の世代につないでいくために、地域に眠る文化財の保護を行っています」と話すのは、甲佐町文化財保護委員を平成31年3月に退任後も、文化財の保存や活用に取り組む本田荘一さん

（上早川二区）と清村一男さん（下豊内区）。2人は宮内地区社会教育センター（旧宮内小学校）内の「甲佐町民俗資料館」で、町文化財保護委員らとともに同資料館収蔵資料の記録や手入

れなどを行っている。同資料館に収蔵されているのは、江戸時代〜昭和初期に使われていた農具や生活道具など地域住民から寄贈された民俗資料約200点。もともと仁田子の旧西村民俗資料館にあったこれらの民具たちは、熊本地震で被災した旧資料館から2人が中心となって保護したものだ。この地で営まれていたかつての暮らしを今に伝える



清村 一男さん 本田 荘一さん
Kiyomura Kazuo Honda Soichi

きよむら かずお・ほんだ そういち（下豊内区）（上早川二区）
ち / 文化財の保存・活用にはボランティアで取り組む。ともに熊本県文化財功労者表彰を受賞。

民具の数々を次の世代に引き継いでいくために、その保護と活用に関心を砕いてきた。

これらの活動が認められ、令和元年に熊本県文化財功労者表彰を受賞した本田さんは「技術の発達によって、私たちの暮らしは便利なものになりました。子どもたちが先人の暮らしにふれることができる場として、この資料館を守っていききたいですね」と笑顔を見せる。

一方、この秋誕生した国指定史跡「陣ノ内城跡」にも大きく関わった清村さんもその功績が認められ、本年度の熊本県文化財功労者表彰を受賞。「まちの歴史を知ることが、このまちの魅力を理解することにつながります。陣ノ内城跡をはじめとする文化財を守り継ぐことで、未来を担う若い世代がこの地で脈々と営まれてきた人々の暮らしに触れる手助けができればうれしいです」と清村さん。

この地の歴史と文化に寄り添ってきた2人は、温故知新の思いとともに、このまちの暮らしを未来につないでいく。